

Topics

- ▶ 松村主任研究員が、10/13-14に同済大学(上海)で開催された第1回国際会議(主催:国際ハビタット工学会及び国連ハビタット)にて、論文発表を行い“The Best Presentation”の表彰を受けました。
- ▶ 11月14日に開催する第58回NSRI都市・環境フォーラムは、李仁根氏(ソウル市立大学土木工学科 客員教授)によるご講演「ソウル:アジアの僻地から世界クラスの都市へ」です。詳細は <http://www.nikken-ri.com/forum/> まで。

都市の「全体性」を考える

都市に対する愛着はどのような要因から生まれますか。今後引っ越すならどのような魅力を持つまちに住みたいですか。なぜ、欧米の特定の諸都市(パリなど)に住みたがる人が後を絶たないのでしょうか。このような問いに対して、例えば、施設の集積、交通の利便性、みどりの豊かさ、街並みなど、個別の指標を積み上げて分析することとは異なるアプローチがあり得ると思います。それは、都市の価値や意義を包括的に見通す枠組み(以下、都市の「全体性」という)であり、科学的な実証が難しい場合の多いアプローチだと思っています。「まちの気分」のような実態のないメッセージを捉えること、と言い換えができるかもしれません。参考文献を挙げると、例えばC.アレグザンダー^{豆1}『時を超えた建設の道』では、都市の良し悪しは計量化したり名付けたりしたりすることのできない「無名の質」であるとしています。

都市の「全体性」を捉えることは、実務的には「都市計画マスタープラン」等における将来都市像や、まちづくりの定性的目標の設定、都市のアイデンティティの明文化といった作業の際に要請されます。また、人口減少が予測されるなか、市街地の縮退(スマートシュリンク^{豆2})が議論されていますが、特定の市街地を縮退させるべきかどうかは、都市の便益などを定義して検討する必要があります。その前提となる原理原則として、都市の「全体性」概念にかかるナレッジの整備が必要であるように思います。では、どのように「全体性」に近づいたらよいのでしょうか。

◆人間の活動に焦点をあてる

都市は建築物や土木構築物をはじめとした「物」と、歩く、暮らす、働く、社会関係を形成する、などといった「人間の活動」によって構成されます。フランスの社会理論家ド・セルトーの言葉を流用するならば、「人間の活動」とは、物理的な都市空間の基盤目にはめこまれているはずなのに、しだいにその既成秩序をはみだしたりそれたりする海の泡の動きといえます。従来の都市計画では、細部にわたる複雑な人間の活動に対して、十分には把握しようとはせず、ある程度単純化して計画を作ってきました。しかし、それらの活動が単調とならないように工夫することが都市計画の重要な役割だと思っています。また、活性化した人間の諸活動によって構築される集積的経験こそが、都市の「全体性」を想起・定着させるのではないのでしょうか。

◆人間の活動のモデル

「人間の活動」とは、どのようなモデルに依拠して把握ができるのでしょうか。文化人類学者の渡辺靖は、社会構造と人間の行為の関係^{豆3}を考察したP・ブルデューのモデルを次のように解説しています。

- ①自発的に見える行為も社会構造によって特徴づけられている。
- ②行為者は、社会構造を内面化し、流用・援用する能動的主体である。
- ③行為者の実践そのものが社会構造を再生産している(ないしは、変化させている)。

以上を、都市計画にひきつけて流用するならば、空間や制度は様々な諸活動を制御している一方で、「人間の諸活動が都市空間を生成している」といえます。都市の「全体性」概念に近づくには、人間の活動が都市空間(ひいては社会環境)をどのように生成しているのか、その構築性をモデルとして提示する試みが必要だと思っています。

今月の豆知識

●豆1) C.アレグザンダー

クリストファー・アレグザンダーは、建築・都市計画の理論として「パタン・ランゲージ」を提唱したことで知られています。パタン・ランゲージとは、生き生きとしたまちや建物が持っているであろう共通のパタンを、「街頭の踊り」など人間の行為に基づいて体系化した、まちづくりのルール集です。

●豆2) スマートシュリンク

わが国は世界に先駆けて人口減少・超高齢社会を迎えつつあります。拡大基調がつづいてきた都市をどのように豊んでいこうかが問われています。

●豆2) 社会構造と人間の行為の関係

フランスの社会学者ピエール・ブルデューは、社会構造と人間の行為が相互に「構造化」し合っている動態を、社会理論として提唱しています。

行為を規定



筆者の紹介

藤田 朗
ふじたあきら
主任研究員



市町村都市計画マスタープランの策定、都市計画制度に関する調査研究などに従事。所属学会は、文化経済学会<日本>、日本文化政策学会など。



編集後記 新しい家族が増えた人、新しく家族になった人、編集担当の中でも人生の節目を迎え、新たな気持ちで人生を歩みだしているメンバーがいます。VIEWも常に新たな気持ちを忘れずに発行を続けたいと思いますので、引き続きご愛読下さい。(みどりん) 定期配信希望は、webmaster_ri@nikken.co.jpへ

